

発達障害に関するシンポジウム

通級による指導に期待されること ～高等学校における在り方を考える～

シンポジスト 笹谷 幸司 氏（神奈川県立足柄高等学校長）
黒田 宗 氏（和歌山県立有田中央高等学校教諭）
綿貫 愛子 氏（東京都自閉症協会）
畑 久恵 氏（保護者）

指定討論者 植木田 潤 氏（宮城教育大学）
司会進行 笹森 洋樹

【背景】

高等学校教育の現状—文部科学省の調査から—

(学校基本調査-29年度)

中学校卒業者の高等学校等 進学率98.8%

全日制・定時制 4,897校 のうち 私立27%

卒業後 (全日制・定時制)

大学等54.7%、専門16.1%、就職17.6%

(児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査
-29年度)

長欠者2.4%(80,313人) うち不登校1.5%(49,643人)

中途退学者1.3%(46,802人)

不登校のうち中途退学27.3% 原級留置7.2%

発達障害等困難のある生徒の中学校卒業後における進路に関する分析結果（H.21）

平成20年度卒業の発達障害等困難のある中学校3年生
（調査対象：約1万7千人）

発達障害等困難のある生徒の、高等学校進学者全体に対する割合は約2.2%

※すべての課程、学科に進学

課程別		学科別	
全日制	1.8%	普通科	2.0%
定時制	14.1%	専門学科	2.6%
通信制	15.7%	総合学科	3.6%

高等学校教育部会（中教審）のまとめ

1. 生徒を取り巻く状況の変化

- ・生徒の多様化
- ・基礎学力の不足と学習意欲の低さ
- ・大学入試の選抜機能の低下

2. 学校・学科や教育課程の変化

- ・学校・学科等の多様化
- ・教育課程の多様化

質の確保・向上に関する課題・基本的考え方

- ・「共通性の確保」と「多様化への対応」

通級による指導の制度化の意義

高等学校への進学率は98%を超え、発達障害を含め、多様な教育的ニーズのある生徒が在学。自立に向けて指導できる最後の教育機関であり、適応上の課題は社会問題とも関連。

インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、高等学校においても、適切に特別支援教育を実施する旨が学校教育法に規定。

中学校で通級による指導を受けている生徒数は年々増加。高等学校では制度の多様化、学校設定教科・科目等により、通常の教育の範囲内で個別的に対応。

これらを踏まえ、高等学校においても、障害に応じた特別の指導（自立活動等）を行えるようにする必要性の高まり

「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（報告）」H28.3

「通級による指導の導入は、障害のある生徒を特別な場に迫いやるものであってはならない（略）」

一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、障害による学習上又は生活上の困難を改善又は克服するための適切な指導及び必要な支援を行うという特別支援教育の基本理念を改めて認識し、

「障害のある生徒の在籍する全ての高等学校において、特別支援教育が一層推進されることを期待する。」

通級による指導を受けている児童生徒数

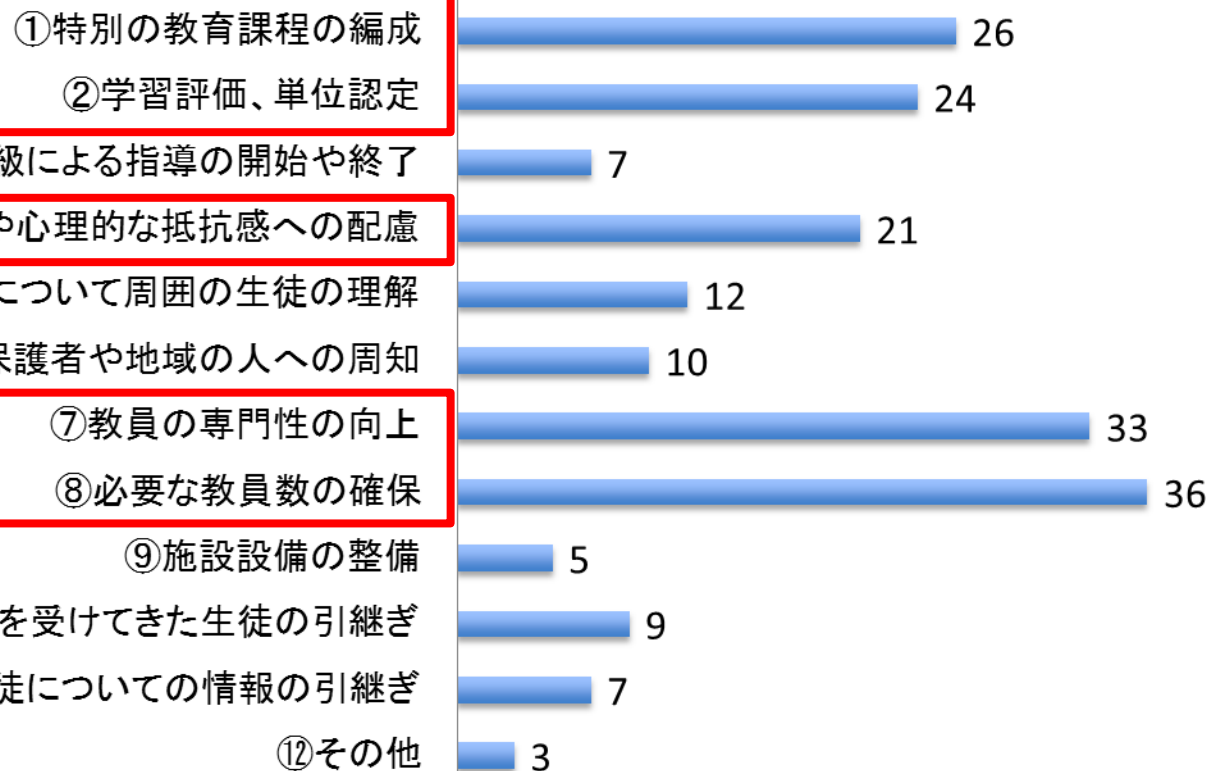
平成29年5月1日現在(人)

障害種別	小学校	中学校	合計
言語障害	37,134	427	37,561
自閉症	16,737	2,830	19,567
情緒障害	12,308	2,284	14,592
弱視	176	21	197
難聴	1,750	446	2,196
学習障害	13,351	3,194	16,545
注意欠陥多動性障害	15,420	2,715	18,135
肢体不自由	100	24	124
病弱・身体虚弱	20	9	29
総計	96,996	11,950	108,946

発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校
における通級による指導のあり方に関する研究
－導入段階における課題の検討－（2018）から

教育委員会アンケートから 制度導入にあたっての課題

特に重要と追われるもの N=48(政令市1を含む)



教育委員会アンケートから 期待している成果

対象となる生徒にとって

- ・個に応じた相談、指導、支援
- ・社会性、コミュニケーション能力
- ・対人関係、集団参加
- ・自己理解の促進
- ・自己肯定感の高まり
- ・二次的な問題の改善
- ・ストレスの対処能力の高まり
- ・授業の理解、学習意欲

など

教科担当の教師にとって

- ・個々の実態に応じた指導、支援
- ・個に応じた進路指導、生徒指導
- ・相談体制の充実
- ・教材教具や支援機器等
- ・教員同士の情報の共有化 など

学校や地域にとって

- ・校内支援体制の推進
- ・特別支援の視点での生徒指導
- ・どの子にも学びやすい環境整備
- ・保護者等との相談体制の充実
- ・ネットワークの構築 など

※学校全体の支援体制づくりの
リソースとしての機能と役割

導入段階における検討課題

① 教職員全体の共通理解

② 校内の支援リソースの機能と役割

③ 担当教員の配置と専門性

④ 意義や目的に関する説明と周知

⑤ 関係機関との連携、地域資源の活用

⑥ 生徒のニーズ把握と通級の判断

⑦ 特別の教育課程の編成

⑧ 通級による指導の指導内容

⑨ 指導の評価と単位認定

⑩ 進路指導に関する指導

①教職員全体の共通理解

- 多様な学びの場の整備の必要性
校内指導体制の整備・構築が大切
- 通級による指導と在籍学級との連携
担任及び特別支援教育コーディネーターとの協働
- 学校・学級全体での取組の重要性
通常の学級における適切な配慮から
- ユニバーサルデザインの考え方に基づく授業改善
障害のある生徒にとって分かりやすい授業は、障害のない生徒にも分かりやすい授業

⑥生徒のニーズ把握と通級の判断

- ・通級による指導の必要性の判断

本人、保護者、教員のニーズや意向、専門家の意見等総合的判断

- ・生徒の教育的ニーズの把握

生徒のニーズは多様、困難な状況について多面的に情報収集

- ・通級の利用者の決定までのプロセス

生徒や保護者に対するガイダンス（説明・周知）、校内委員会等において検討、生徒や保護者の意向を尊重し、合意形成

- ・中学校からの情報の引継ぎ、連携

入学者選抜後の迅速かつ効果的な中学校から情報収集、その後の情報交換の機会の確保

⑧通級による指導の指導内容

- ・特別支援学校の自立活動に相当する指導
障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とした指導
 - ・指導内容は個々の教育的ニーズにより決定
生徒一人一人の障害の状態や発達 の程度等に応じて、個別に指導目標と具体的な指導内容等を設定したきめ細かな指導の実施
 - ・学習支援と生活支援そして就労支援
学習面や生活面に関する内容のほか、卒業後の進路と就労に関する内容などが大きな柱
- 【障害認識や自己理解に関するもの】 【ソーシャルスキルに関するもの】
【ライフスキルに関するもの】 【学習スキルに関するもの】 など

⑨指導の評価と単位認定

・高等学校における履修と単位認定

基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度に関する観点についても評価、観点別学習状況の評価の推進

・通級による指導における単位認定の考え方

個別の指導計画に従って通級による指導を履修、成果が個別に設定された目標からみて達成と認められることが単位認定の基準

⑩進路指導に関する指導

- キャリア発達を促す指導と進路決定のための指導
自分が「やりたいこと」と、自分に「できること」との間にギャップ
- 就職先又は進学先への情報の引継ぎ
自己の肯定的な捉え、客観性のある自己理解を通じた合意形成
- 実地的な体験と関連付けた指導内容・方法
インターンシップやオープンキャンパスなど実地的な体験と関連付け
- ワークキャリアとライフキャリア
働く上で必要なワークキャリアと自立して生活するためのライフキャリア

【シンポジウム趣旨】

高等学校教育において、初めて障害など特別な教育的ニーズのある生徒に対する特別の指導が認められることになるが、単位による履修・修得により卒業認定する教育課程の編成や全日制・定時制・通信制という課程や学科など、小、中学校とは異なる点も多い。

生徒の自尊感情や自己理解、二次的な障害の予防という視点も重要であり、生徒の気持ちを日常的に受け止め、心理面、情緒面の対応ができる場としての役割も期待される。

本シンポジウムでは、高等学校における通級による指導に期待することについて、高等学校、支援者、保護者、大学のそれぞれの立場からご発言いただき、今後の在り方について考えてみたい。

【登壇者の紹介】

笹谷 幸司 氏 （神奈川県立足柄高等学校校長）

神奈川県立足柄高等学校校長。足柄高校は、知的障害の生徒も共に学ぶインクルーシブ教育実践推進校。前任校の綾瀬西高校は、通級による指導のモデル校。高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議委員等、公的委員を多数歴任している。

黒田 宗 氏 （和歌山県立有田中央高等学校教諭）

和歌山県立有田中央高等学校通級指導教室担当。有田中央高校は、生徒カルテの作成と活用、授業・学習環境のユニバーサルデザイン化等、特別支援教育の視点で学校全体の活性化を図る中に通級による指導を位置づけ、生徒一人一人の学びを保障する学校づくりに取り組んでいる。

【登壇者の紹介】

綿貫 愛子 氏 （NPO法人東京都自閉症協会）

NPO法人東京都自閉症協会役員。世田谷区受託事業「みつけばルーム」コーディネーター。NPO法人リトルプロフェッサーズ 副代表。日頃は臨床発達心理士として、東京都の公立小学校（特別支援教室）や特別支援学校の巡回相談を行っている。ご本人も自閉スペクトラム症など発達障害の当事者。

畑 久恵 氏 （保護者）

小学校、中学校の通級指導教室を利用。「中学校の通級では特に通級の担当者が在籍学級の担任とのかかわり方の助言や、仲立ちをしてくれたことで、母親自身が安心感を得られた。高校は思春期特有の課題もあり、子どもも親も相談できる場所が必要である。」と語る。

【登壇者の紹介】

植木田 潤 氏 （宮城教育大学教授）

宮城教育大学特別支援教育講座教授。専門は発達障害学。ヒトとの繋がりをベースとした心の育ちと学びの発達に対する臨床実践をキーワードに、二次障害の理解と支援、通常の学級における発達障害児の支援、学校コンサルテーションを通じた教職員への支援等について研究している。

司会・進行

笹森 洋樹

（国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター）